

## 第2章 外国につながる児童生徒のための サポートノートの作成を目指して



きみたか  
佐藤公孝

川崎市総合教育センター カリキュラムセンター指導主事

### 1. 川崎市における外国につながる子どもたちの実態

本市は平成20年12月現在、約32,000人の外国人市民が生活をしている政令指定都市である。平成20年5月1日付の外国籍児童生徒基本調査では、市内の小中学校に765人の外国籍児童生徒が全市に分散して在籍しており、かつその約4割が川崎区（南部）に集住している傾向がある。国籍も31カ国にもおよび多国籍多言語という大きな特徴がある。帰国児童生徒も市内に1,309人在籍しており、近年、海外で現地校のみに在籍していた児童生徒の編入が増え、日本語指導が必要なケースが多くなっている。もはや外国籍、日本国籍、二重国籍というような国籍ではなく、一人ひとりにどのような教育的な支援が必要であるかを考えていくことがより求められている。

さらに、本市では9割の学校において日本語指導の必要な児童生徒が3人以下であり、国際教室（日本語教室）を設置する基準には至っていない。そのために「どこの学校でも教職員全員で温かく受入ができるようにする」ことを本市の大きな目標としている。

## 2. 外国につながる児童生徒教育の川崎市における課題

それぞれの学校では、温かく受入れ、日本語指導はもとより、子どもたちに居場所ができるように、たいへんな努力をしている。その中には、管理職、学年主任、学級担任、養護教諭、国際教育担当者、日本語教室担当者などがチームとなって受入れを進め、編入後も、日本語指導等協力者をはじめ地域のボランティアなどと連携を積極的に進めているすばらしい指導実践がある。しかし、その実践内容がなかなか広がらない現状がある。また、問題がある一つのケースから、外国につながる子どもたちには問題があると決めつけてしまうような指導実践もある。このような実践報告を聞く時、本当に子どもの背景にある要因を多面的に見つめようとしているか、子どもの可能性を日本語以外から見つめているか、自分の限界を素直に語り、まわりの人達とつながろうとしているかなどの疑問を感じることがある。

また、本市には5校に日本語教室（国際教室）を設置させており、定期的に担当者会を行い、情報交換や授業研究などを通して指導力向上をめざしている。児童生徒の指導計画や学級担任との連絡方法などもそれぞれの学校に合った方法で積極的に組まれている。しかし、日本語教室の設置年数や担当者の児童生徒観、指導観によって日本語教室の運営や指導に差があり、担当者も1～2年間で替わる学校もあり、年度ごとの実践の積み重ねを進める必要性もある。

## 3. サポートノートの作成の意図と内容

現在、本市では特別支援教育対象の全児童生徒に対して、サポートノート（図1）を保護者と内容を共有しながら作成評価することが進められている。さらに、神奈川県では支援教育として、なんらかの特別な支援が必要な児童生徒に対する教育としている。

帰国・外国人児童生徒をなんらかの特別な支援が必要な子どもたちと考え、一人ひとりに合った教育を考えることは、今後ますます重要になってくると考える。このような背景において、帰国・外国人児童生徒に対してもサポートノートを作成することで、保護者と日本語教室担当者、学級担任、日本語指導等協力者、地域の支援者などが指導内容を検討し、共有することで、お互いの関係性がよりよいものになり、指導内容も向上することができると考えた。また、将来的には小学校から中学校、中学校から高等学校へ一人一人の成長の歩みや課題に対する指導に連続性を持たせることもできると考えた。

#### 4. サポートノートの構成

サポートノートは以下のように構成されている。

- ①フェイスシート…編入時、川崎市総合教育センターから学校長へ送付される教育相談カードや保護者に記載していただく児童生徒調査票〈多言語版〉をもとに作成する（図2）。
- ②指導計画シート1…本人・保護者・学校の願いと編入後の児童生徒の実態から長期指導計画を作成する。学年会や保護者面談で定期的に見直しをする（図3）。
- ③指導計画シート2（学期ごとに具体的な指導内容と目標の設定と評価（図4）。
- ④指導連絡シート（日本語教室担当者と学級担任・日本語指導等協力者、地域支援者と指導内容や意見交換をするためのもの（図5）。

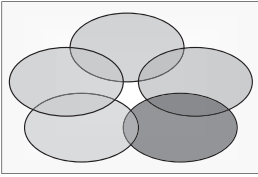
記載方法 見本用	
帰国・外国人児童生徒のための	
<h1 style="margin: 0;">サポートノート</h1>	
	
川崎市立	小学校
川崎市立	中学校
ふりがな 氏 名	
作成年月日	年 月 日

図1 サポートノート



「指導計画シート1」は本人・保護者・学校の関係と編入後1ヶ月後の児童生活の実態から長期指導計画を作成してください。また、学校会や保護者会などで定期的に確認してください。

**指導計画シート1 実態の把握と長期指導計画の設定**

本人の願い

保護者の願い

学校の願い（学校長・在籍学校担任・日本語指導等協力者など）

児童生徒の状況	必要な指導
<p>生活行動・学習・対人関係などの観点から、編入1か月～2ヶ月の間で、児童生徒の様子で気づいたことを横次記載してください。</p>	

指導計画シート① 作成日 平成 年 月 日 作成者 ( )

図3 指導計画シート1

「指導計画シート2」は、具体的な指導内容と評価を作成します。学期ごと（学期・後期）に作成をします。学期ごとにより具体的な指導内容・目標を設定し、評価をします。

**指導計画シート2 指導内容と評価の設定**

日本語教室（国際教室）での指導内容	評価
<p>進捗、日本語、教科指導の3つ指導内容の視点から検討していきます。児童生徒の実態によって日本語指導と教科指導を分けて記載できない場合も予想されます。前期あるいは後期の期間で、その児童生徒が到達できそうな具体的な指導内容を考えることが重要です。</p>	

通常学級での指導内容	評価
<p>学校での指導内容は、学校での役割などを選んで学校への帰属意識や自己肯定感を育む視点が重要です。また、教師の具体的な働きかけも記載してください。</p>	

指導計画シート② 作成日 平成 年 月 日 作成者 ( )  
 指導計画シート① 評価日 平成 年 月 日 作成者 ( )

図4 指導計画シート2



その項目を意識して指導していく意味など重要な視点を生み出すことができた。平成 20 年度は、はじめての試みであったために、話し合いではお互いに意見を交わすことに遠慮があった場面もあったように感じている。しかし、多面的に児童生徒を捉えていく視点や異校種間かつ外部機関の方々と協働で検討を重ねていく過程こそが、児童生徒を中心に置き、お互いの児童生徒観や指導観を問うものであったと感じる。

今回、川崎市日本語教室担当者間の中で小中学校を通じて、同じ視点で子どもたちを育てる共通の土台ができたことは意義がある。さらに、今後も新しい発想の上に立って、「将来の川崎を担う帰国・外国人児童生徒を育てるためのサポートノートの作成をする」という柔軟で力強い姿勢が、私たち一人ひとりに求められる。今後は、それぞれの学校に入学した 1 年生を対象にサポートノートを作成し、そのサポートノート（指導計画シート 2）に沿った授業研究を計画していく予定である。